

被爆80年

広島大学原爆放射線医科学研究所

長崎大学原爆後障害医療研究所

共同特別企画

原爆は実に多くの過酷な人生を生み出しましたが、被爆地の大学の医学部も、その一員でありました。

広島大学医学部は1945年8月5日に開校しました。

長崎大学医学部はほぼ爆心地となり、夏休みを返上して学ぶ学生、いつも通りの営みのはずであった研究者や病院は、突然大変大きな打撃を受けました。生き残った学生たちは、季節になると虞美人草が咲き誇る、医学部キャンパス近くの「グビロが丘」に、散り散りになった亡き友たちの遺骨を少しずつ拾い集め、慰霊碑を建てました。

広島大学は、戦後、学問の復興への決意を、力強くよみがえる不死鳥(フェニックス)の名を持つ植物に託して学章としました。被爆に屈しない80年を過ごしてきた被爆地の、そこの大学での医学への取り組みの一端を、このたび、2025年に皆様にご紹介したいと思います。

企画展示

# グビロが丘の祈り、 フェニックスの誓い

—被爆者を知り、被爆の医学を追い求めたヒロシマとナガサキの80年—

開催時期

2025年夏・秋

開催地

広島・長崎(巡回展)

\*広島大学医学部、長崎大学医学部などを予定

主催 広島大学原爆放射線医科学研究所  
長崎大学原爆後障害医療研究所

お問合せ … 長崎大学原爆後障害医療研究所  
資料収集保存・解析部  
電話:095-819-7123

HP) <https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/abcenter/>  
メール) [datactr\\_a\\_bomb@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:datactr_a_bomb@ml.nagasaki-u.ac.jp)



ご案内の  
HPはこちら  
から



お問合せの  
メールは  
こちらから

